

令和5年10月11日

南の風 491

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

「信頼」の次に話題になったのが「**責任**」についてでした。チームマネジメントの中で、「信頼」と「責任」はセットのようなものと言えます。

我々コーチにとっての責任とはチームを預かっているそのものです。コーチなら、**預かった選手の成長に大きな責任を持たなければいけません**。その次がチームの成績になります。コーチであるのに選手に間違っただけやいい加減なことを教えたり、勝っても負けてもいいんだという軽い気持ちでいたりしては、コーチとしての責任を果たしているとは言えません。

また組織を継続させることもコーチの責任です。一過性の成果しか挙げられなかったり、選手が途中で空中分解してしまったり、廃部したりといった事態は未然に防がなければなりません。そしてさらに、自分の行動に責任を持てるような選手を育てることも、コーチの責任と言えるでしょう。

一方で選手の責任は自分がバスケットボールを通じて成長すること。勝利に向かって精一杯努力して、その結果に責任を持つことです。

責任と信頼は影響し合います。選手が成長するのは選手自身の責任だと思うということは、コーチの視点から見れば、選手は自らを磨いていけるはずだと信頼することからスタートします。そして責任感のない選手ばかりの組織に規律は生まれないのです。

しかしコーチは「子どもたちにできるはずがないから自分が教えなければいけない」という考え方に陥りやすいものです。これは一見するとコーチの責任感が強くて、良いことのように思えます。しかし、裏を返せば実は、選手を信頼していないだけなのかもしれません。信頼のない責任感は弱いもの。**選手がコーチに寄りかかっているような責任感では、本当の困難に直面したときに簡単に折れてしまう**と思います。どちらかが欠けたり小さかったりすれば土台のバランスは悪く、高く強いピラミッドは築けないでしょう。

コーチが選手を信頼し、選手もコーチを信頼しているチームが理想だと考えられます。**コーチは最終的には選手が上手くなるのは選手次第、つまり選手の責任だと信頼して任せる**のです。但し、**選手がどこかでつまずいたり、間違っただけに進んでしまったりしたら、それを向上的に変容させ成長の方向に導くべく、指導者として責任を持っていなければならない**と思います。

具体的な話をします。コーチは軽はずみな約束をしてはいけないということです。自分の発した言葉を、選手がどのように受け取っているかを意識しなければなりません。軽い言葉掛けが選手との信頼を根本から崩してしまうことがあります。

例えばある日の練習で、時間が無くなり予定していた下級生同士のゲームができなくなりました。コーチは下級生に「明日は必ずやるからね」と約束しました。しかし次の日、コーチはそのことをすっかり忘れて通常の練習をしてしまいました。下級生たちは「何だ、コーチは約束を守らないんだ」ということになってしまいます。特に気をつけなければならないのは、お互いの距離が近くなったときです。コーチは言葉を軽く発しガチになることがあるからです。→ これ、私の失敗談です。次号に続きます。